

2023年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2022年11月17日

新明和工業株式会社

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

2023年3月期 第2四半期 連結決算実績

- ※ 当資料に掲載されている内容のうち数値は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。
- ※ 当資料において「1Q」は3カ月累計期間、「2Q」は6カ月累計期間、「3Q」は9カ月累計期間、「通期」は12カ月累計期間を示しています。

(単位：百万円)

	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減 (増減率)
受注高	119,992	133,910	+ 13,917 (+ 11.6%)
売上高	100,264	104,001	+ 3,737 (+ 3.7%)
営業利益	4,438	3,206	△1,232 (△27.8%)
経常利益	4,698	4,168	△530 (△11.3%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,362	2,871	△490 (△14.6%)
受注残高	182,858	243,764	+ 60,906 (+ 33.3%)
為替レート (1USドル)	110.0円	132.5円	

前年同期比

受注高

- 「産機・環境システム」が大幅増となるなど、「特装車」「その他」を除く全てのセグメントが増加した結果、全体では増加
- 2Qとしては過去最高

売上高

- 「特装車」「その他」を除く全てのセグメントが増収となり、全体では増収

利益

- 円安効果はあるも、鋼材価格の上昇等により、減益

2023年3月期 第2四半期 連結決算実績 セグメント別

(単位：億円)

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減
特装車	577	570	△6	483	437	△46	35	7	△28
パーキングシステム	190	206	+ 16	178	183	+ 5	19	11	△7
産機・環境システム	142	241	+ 99	101	154	+ 52	2	12	+ 10
流体	105	138	+ 33	62	87	+ 24	△0	3	+ 3
航空機	93	98	+ 5	101	115	+ 13	△4	7	+ 11
その他	91	82	△8	75	63	△12	4	3	△0
調整額	—	—	—	—	—	—	△12	△13	△1
合計	1,199	1,339	+ 139	1,002	1,040	+ 37	44	32	△12

※ 23.3期1Qより報告セグメント区分を見直し、「産機・環境システム」に含まれていた「流体」を報告セグメントとして記載しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	22.3期末	23.3期 2Q末	増減
現預金	26,600	17,239	△9,361
売上債権	70,945	72,768	+ 1,823
棚卸資産	46,925	52,610	+ 5,685
有形・無形固定資産	45,306	45,319	+ 13
その他資産	31,429	33,181	+ 1,751
資産合計	221,206	221,118	△87
買入債務	25,898	26,237	+ 338
有利子負債	52,254	54,860	+ 2,605
その他負債	48,792	42,940	△5,851
負債合計	126,945	124,038	△2,907
自己資本	92,465	95,434	+ 2,969
その他純資産	1,795	1,646	△149
純資産合計	94,261	97,080	+ 2,819
負債・純資産合計	221,206	221,118	△87

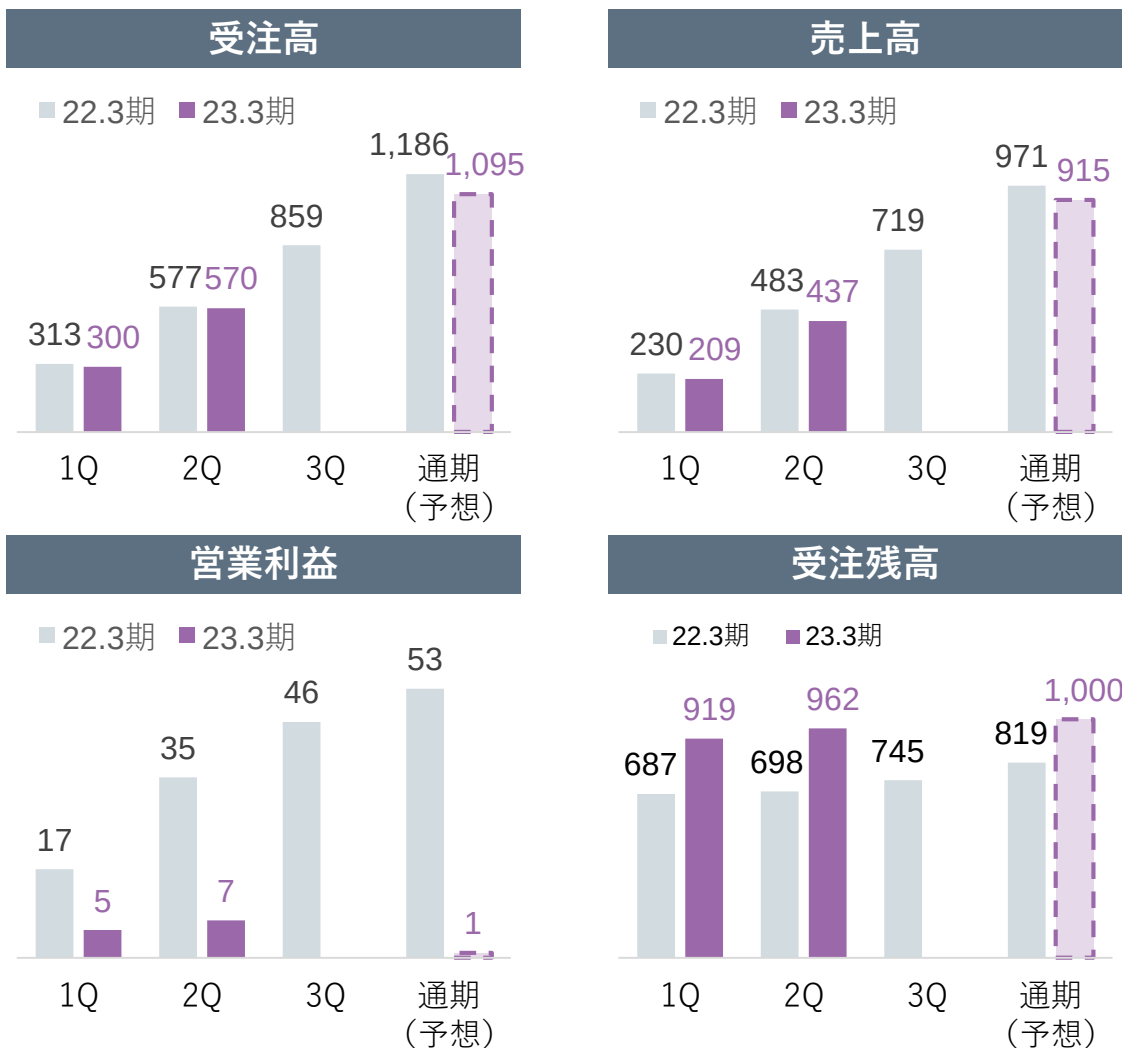
自己資本比率	41.8%	43.2%
--------	-------	-------

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△1,092	△6,137	△5,044
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,507	△4,074	△567
フリー・ キャッシュ・フロー	△4,599	△10,211	△5,611
財務活動による キャッシュ・フロー	△62	△121	△59

業績推移 (単位：億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

- 建設関連車両、物流関連車両の減少

売上高

- 建設関連車両、物流関連車両、環境関連車両の減少

営業利益

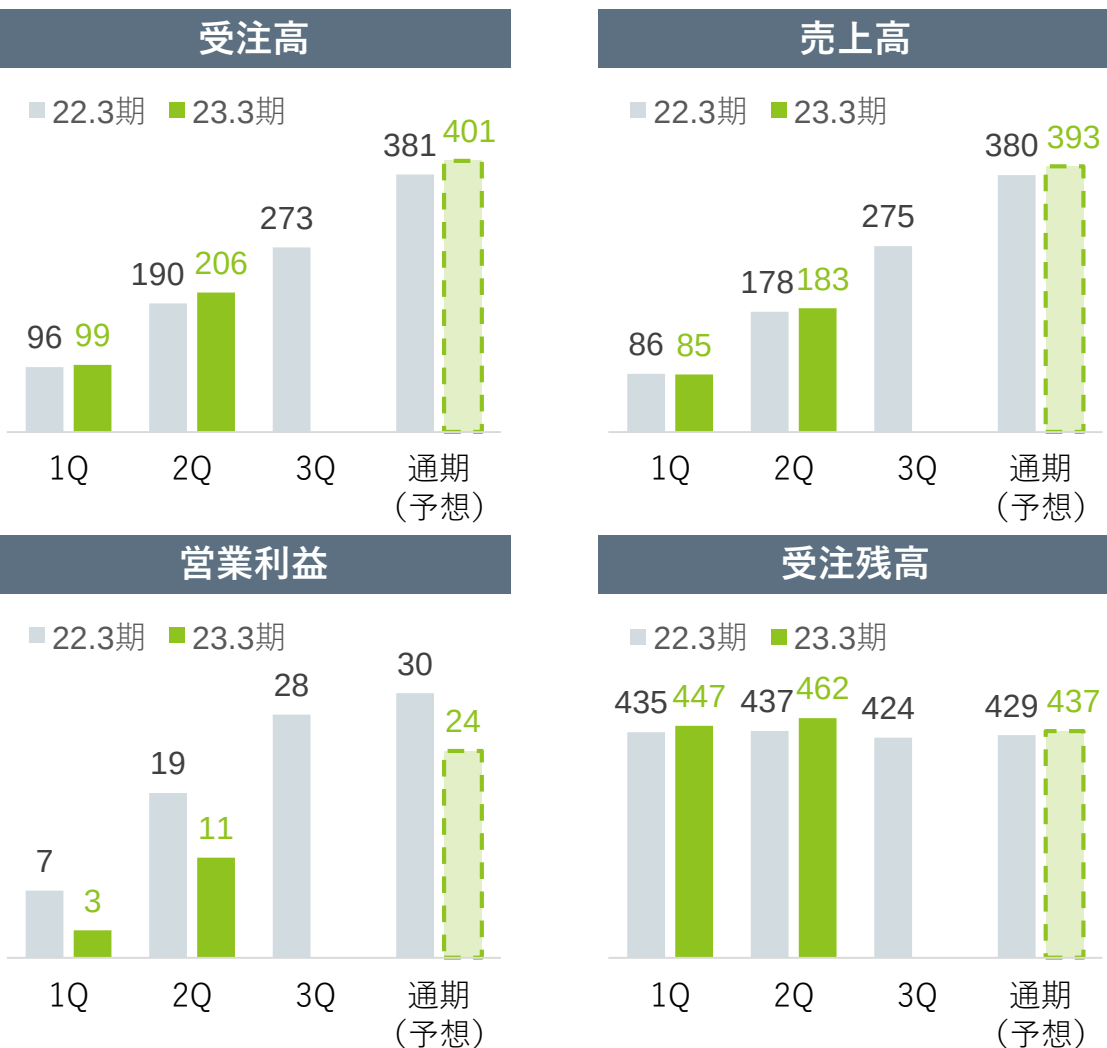
- 減収による減益
- 鋼材価格の上昇等による減益

受注残高の手持日数推移 (単位：カ月) ※

22.3期				23.3期			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q (予想)
8.9	8.7	9.3	10.1	13.2	13.2		13.1

※受注～売上の平均期間、受注残高÷1カ月当たりの売上高で算出

業績推移 (単位：億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

機械式駐車設備：製品（二・多段方式の新設）の増加
航空旅客搭乗橋：国内、海外ともに増加

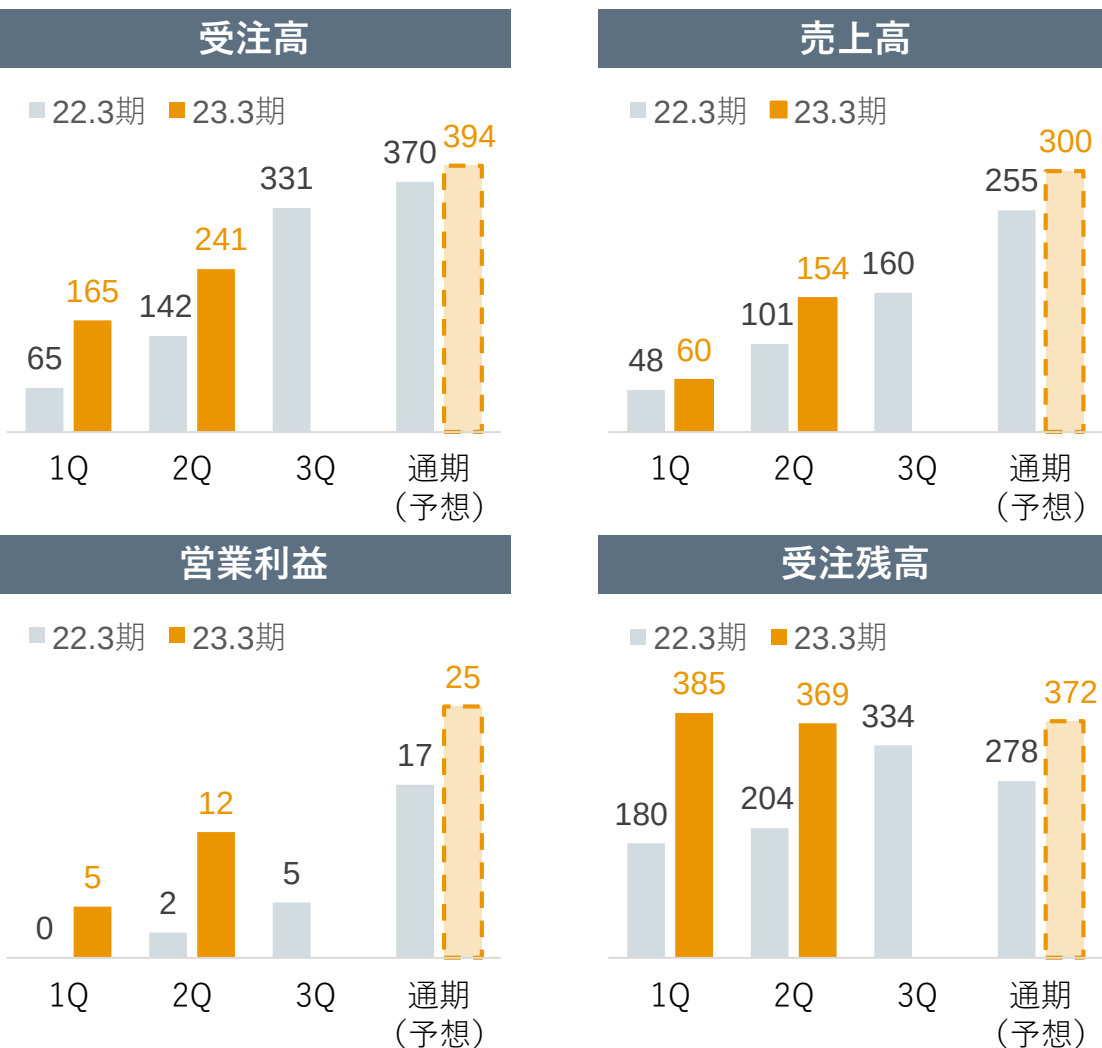
売上高

機械式駐車設備：改修修理の減収
航空旅客搭乗橋：国内、海外ともに増加

営業利益

機械式駐車設備：改修修理の減収による減益
航空旅客搭乗橋：増収による増益

業績推移 (単位：億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

メカトロニクス製品：真空製品の増加
環境関連事業：プラント案件およびサービス事業の増加

売上高

メカトロニクス製品：真空製品の増加
環境関連事業：プラント案件の増加

営業利益

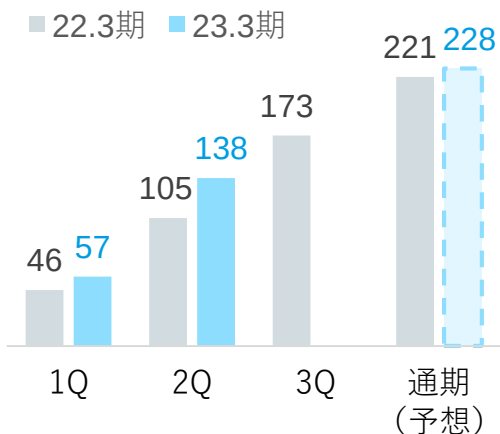
メカトロニクス製品：増収による増益
環境関連事業：工事損失引当金の増加による減益

サブセグメント別 受注高・売上高推移 (単位：億円)

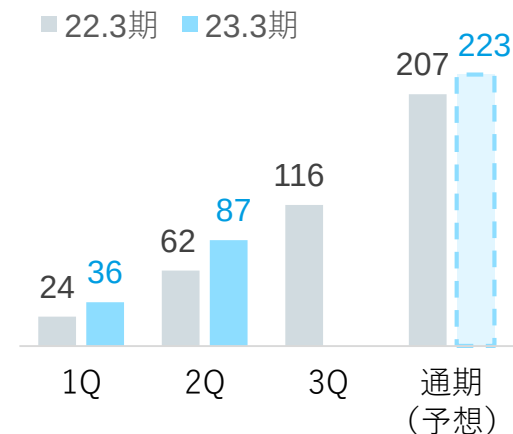
サブセグメント		22.3期				23.3期			
		1Q	2Q	3Q	通期	1Q	2Q	3Q	通期(予想)
メカトロニクス製品	受注高	30	77	130	166	125	163		251
	売上高	33	68	108	159	44	117		201
環境関連事業	受注高	34	65	200	204	39	77		143
	売上高	15	32	51	95	16	36		99

業績推移 (単位：億円)

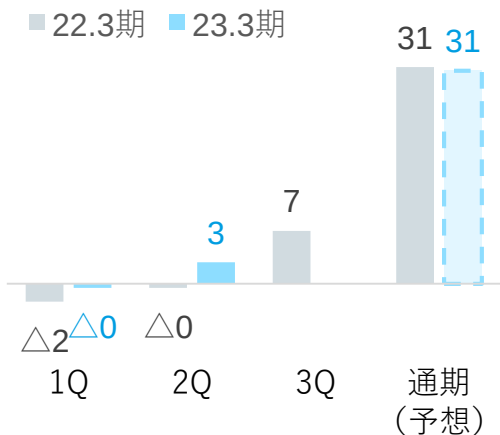
受注高



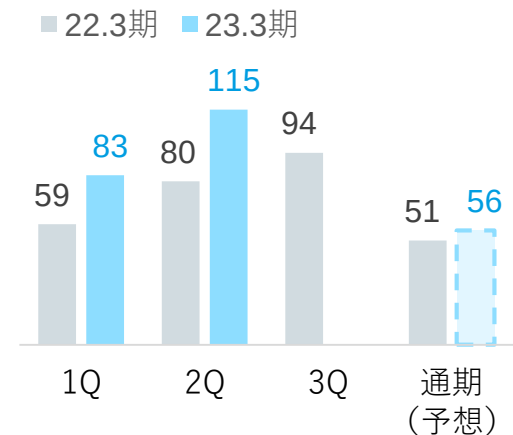
売上高



営業利益



受注残高



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

- 前期に実施したM&A効果による増加
- 国内官需、国内民需、海外関連の増加

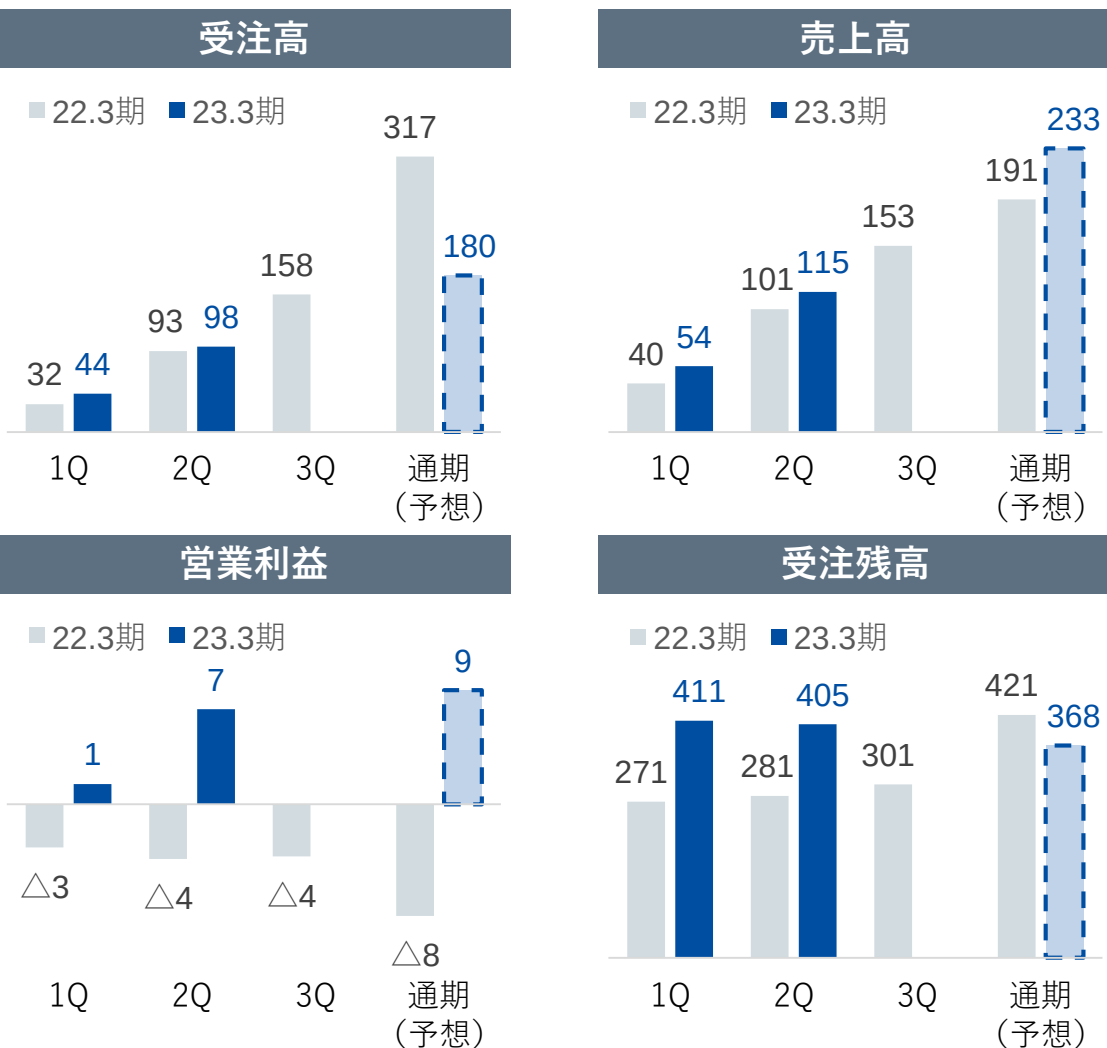
売上高

- 前期に実施したM&A効果による増収
- 受注増に伴う増収

営業利益

- 前期に実施したM&A効果による増益
- 増収による増益

業績推移 (単位：億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

防衛省向け：輸送機向けコンポーネント等の減少
民需関連：「G7500」受注機数増加

売上高

防衛省向け：前年同期並みの水準
民需関連：「777/777X」「G7500」生産機数増加
為替の円安による増収

営業利益

原価低減および為替の円安等による増益

民需関連 生産機数

(単位：機)

	22.3期 2Q	23.3期 2Q
777/777X	10	14
787	20	11
G7500	15	21

為替感応度 (公表日以降)

1円/USドルの円安進行で
約0.4億円の営業利益増

2023年3月期 連結業績予想

2023年3月期 連結業績予想 サマリー

(単位：百万円)

	22.3期 実績	23.3期 予想		増減（増減率）			
		7月公表	10月公表	前期比		7月公表比	
受注高	263,163	234,300	245,600	△17,563	（△6.7%）	+ 11,300	（+ 4.8%）
売上高	216,823	225,000	222,000	+ 5,176	（+ 2.4%）	△3,000	（△1.3%）
営業利益	10,569	9,000	7,000	△3,569	（△33.8%）	△2,000	（△22.2%）
経常利益	11,821	9,200	8,200	△3,621	（△30.6%）	△1,000	（△10.9%）
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,907	6,000	5,600	△1,307	（△18.9%）	△400	（△6.7%）
受注残高	210,338	219,638	233,938	+ 23,600	（+ 11.2%）	+ 14,300	（+ 6.5%）
1株当たり年間配当金	42円	42円	42円	—		—	
配当性向	40.0%	46.1%	49.4%	+ 9.4pt		+ 3.3pt	
為替レート （1USドル）	111.9円	130.0円	135.0円※				

※ 10月公表の為替レートについては、10月以降の前提レートを表示しています。

前期比

受注高

- 「航空機」「特装車」セグメントで減少し、全体でも減少となる見込み

売上高

- 「特装車」「その他」を除く全てのセグメントで増収となり、全体でも増収となる見込み

利益

- 円安効果を見込むも、鋼材価格の高騰等により、減益となる見込み

(参考) 中期経営計画[SG-2023] 業績目標

(単位：百万円)

	24.3期 (目標)
売上高	250,000
営業利益	15,000

セグメント	予想	事業環境（見通し）
特装車		➤ 需要は堅調であるが、主要部品調達遅れ等に伴う生産活動の停滞は想定より時間を要する見通しとなり、年度末の受注残高は前期末の1.2倍にまで膨らむ見込み。 ➤ 鋼材価格等の高騰は、想定を超えて推移。直近では一部の原材料では下落傾向も見られるが、主要材料は2023年度前半までは上げ基調が続き、後半以降もそのまま高止まりが続くと想定。 ➤ 今期から実施した価格改定は、受注では一定の成果がみられるも、前期末時点で10ヵ月を超える旧価格の受注残高（セグメント全体）を保有しているため、売上に反映されるにはタイムラグがあり、今期の増益効果は限定的。
パーキングシステム		➤ 機械式駐車設備の製品事業は、受注は堅調に推移。鋼材価格等の高騰に対し価格改定を実施。 ➤ 収益の柱であるサービス事業は、受注は堅調であるものの、半導体不足に伴う電気部品の長納期化により、売上が減少する見通し。 ➤ 空港設備の航空旅客搭乗橋事業は、東南アジアにおける市場環境回復が2023年度以降となる見通し。
産機・環境システム		➤ 自動電線処理機の需要は復調傾向。長期的には、CASEの進展に伴い、ワイヤーハーネスの需要も今後右肩上がりに増加する見通し。 ➤ 韓国真空株式会社が製造する、EV用リチウムイオン二次電池向け真空乾燥装置は、車載電池市場の急速な拡大に伴い引き合い数も増加傾向。 ➤ 環境関連事業は、プラント案件の需要が堅調。これに伴うストック事業の増加もセグメント業績を下支え。
流体		➤ 国内官需関連は豪雨・浸水対策分野が伸長、リニューアル&サービス分野と共に底堅く推移する見通し。 ➤ 国内民需関連はカーボンニュートラルに向けた設備投資が活況でターボブロワ等の販売が増加。 ➤ 海外関連はコロナ沈静化による市場回復と昨年度連結子会社化したTurboMAX Co., Ltd.の業績が寄与し、受注が増加。
航空機		➤ 防衛省向けは、US-2型救難飛行艇（9号機）を製造中。 ➤ 民需関連は、中大型機市場の回復が、2023年度以降となる見通し。 ➤ 為替レート(USドル)の円安効果に加え、近年の原価低減と固定費圧縮努力が奏功し、3年ぶりに黒字化する見通し。

2023年3月期 連結業績予想 セグメント別（前期比）

（単位：億円）

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	22.3期 （実績）	23.3期 （予想）	増減	22.3期 （実績）	23.3期 （予想）	増減	22.3期 （実績）	23.3期 （予想）	増減
特装車	1,186	1,095	△91	971	915	△56	53	1	△52
パーキングシステム	381	401	+ 19	380	393	+ 12	30	24	△6
産機・環境システム	370	394	+ 23	255	300	+ 44	17	25	+ 7
流体	221	228	+ 6	207	223	+ 15	31	31	△0
航空機	317	180	△137	191	233	+ 41	△8	9	+ 17
その他	154	158	+ 3	160	156	△4	9	10	+ 0
調整額	—	—	—	—	—	—	△28	△30	△1
合計	2,631	2,456	△175	2,168	2,220	+ 51	105	70	△35

※ 23.3期1Qより報告セグメント区分を見直し、「産機・環境システム」に含まれていた「流体」を報告セグメントとして記載しております。

2023年3月期 連結業績予想 セグメント別（7月公表比）

（単位：億円）

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	23.3期 (7月公表)	23.3期 (10月公表)	増減	23.3期 (7月公表)	23.3期 (10月公表)	増減	23.3期 (7月公表)	23.3期 (10月公表)	増減
特装車	1,060	1,095	+ 35	930	915	△15	16	1	△15
パーキングシステム	433	401	△32	405	393	△12	33	24	△9
産機・環境システム	280	394	+ 114	295	300	+ 5	22	25	+ 3
流体	235	228	△7	225	223	△2	32	31	△1
航空機	163	180	+ 17	225	233	+ 8	5	9	+ 4
その他	172	158	△14	170	156	△14	11	10	△1
調整額	—	—	—	—	—	—	△29	△30	△1
合計	2,343	2,456	+ 113	2,250	2,220	△30	90	70	△20

※ 23.3期1Qより報告セグメント区分を見直し、「産機・環境システム」に含まれていた「流体」を報告セグメントとして記載しております。

中期経営計画
[SustainableGrowth-2023]
達成に向けて

中期経営計画の進捗[SG-2023] 目標と進捗状況

[SG-2023]目標値 (2024年3月末)

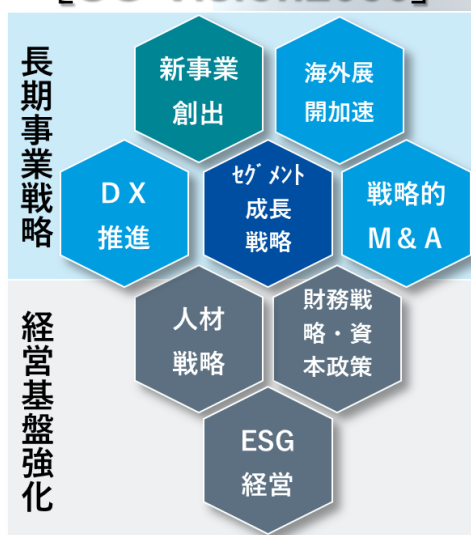
経営指標	目標とする水準
売上高	2,500億円
営業利益	150億円
海外売上高	450億円
ROE	10%以上
ROIC	7%以上
キャッシュ・アクション	目標とする水準
成長投資（設備投資・M&A）	300～400億円（3年間）
配当性向	40～50%
自己株式取得	株価水準等に応じて機動的に実施

セグメント目標

セグメント	売上高	営業利益
特装車	1,020億円	69億円
パーキングシステム	470億円	38億円
産機・環境システム	280億円	18億円
流体	240億円	31億円
航空機	300億円	7億円
その他※	190億円	14億円
調整額	—	△27億円

※「その他」には、建設事業、不動産事業、ソフトウェア事業等を含んでおります

長期経営計画 [SG-Vision2030]



[SG-2023]進捗状況

セグメント成長戦略		EV化に伴い自動電線処理機、真空装置分野が大きく伸長。一定水準に達した流体事業は、今年度から単独セグメントとして扱い、さらなる伸長に期待	→ 深化
	M&A	・ TurboMAX Co., Ltd. (以降、TurboMAX)、天龍エアロコンポーネント(株)、(株)OSK、(株)WAKOをグループ会社化	
	海外	・ 特装車セグメント：アジア・オセアニアへのキット輸出、タイ国でのコンポーネント販売が伸長 ・ 韓国真空(株)、TurboMAXの販売が堅調に推移 ・ 機械式駐車設備、流体機器、自動電線処理機など各事業がアジア圏を中心に販売エリアを拡大	
	DX	・ DX推進委員会を設置 → 事業活動への導入を加速	
新事業		・ 新事業戦略本部を新設（2022年4月） ・ WOTA(株)、富士加飾(株)への出資・アライアンス ・ 社内における新事業開発プロセスの確立	探索→
財務戦略		・ M&A、生産設備更新、ITインフラへの投資を実施 ・ ROIC経営の推進 ・ 配当性向目標水準継続	
人材戦略		・ 経営戦略に基づいた人材戦略の構築と推進 ・ D&I推進に向けたサーベイを実施 → 改善活動継続	
ESG経営		・ ESGマテリアリティを決定し改善策を推進 ・ 統合報告書を発行（2022年9月）	

流体セグメント紹介

[マネジメントアプローチにより単独開示に移行]



世界が認める流体機器メーカーへ

流体事業の歴史

- 1954年 自吸式ポンプ初号機開発
「ポインターポンプ」の名称で販売開始
- 1964年 水中ポンプ発売（海外メーカーと技術提携）
日本初の自動接続装置により売上拡大
- 1973年 雨水ポンプ場の設計・施工を開始
- 1978年 海外への販売開始
全国サービス指定店制度導入
- 1984年 マンホールポンプシステム受注開始
- 1992年 事業拡大に伴い、専門拠点として小野工場を開設
- 2003年 新明和アクアテクサービス(株)設立
- 2008年 高効率・高通過性ポンプ「CNWXシリーズ」開発
国内マンホールポンプ市場でトップシェアに
- 2012年 産機システム事業部から流体事業部が発展的独立
- 2018年 高圧洗浄機メーカー フルテック(株)をグループ化
- 2020年 Thai ShinMaywa Co.,Ltd. にてポンプ生産を開始
- 2021年 ターボブロワメーカー TurboMAX（韓国）を
グループ化



自吸式ポンプ
「ポインターポンプ」



流体製品 ラインアップ



小野工場
(兵庫県小野市)



高効率・高通過性
ノンクロスクリュ(R)
水中ポンプ CNWX



メンテナンスを担当する
新明和アクアテクサービス(株)

◆国土強靱化基本計画（政府資料より）
気候変動の影響を踏まえた治水対策



【解決すべき社会課題】
近年増加傾向にあるゲリラ豪雨や
台風時などの浸水被害

【事業機会】
浸水対策、下水施設に
水中ポンプ技術を活用した
耐水化の需要拡大

【取り組み】
国土強靱化基本計画に沿った、
機器・システム製品やサービスの提供



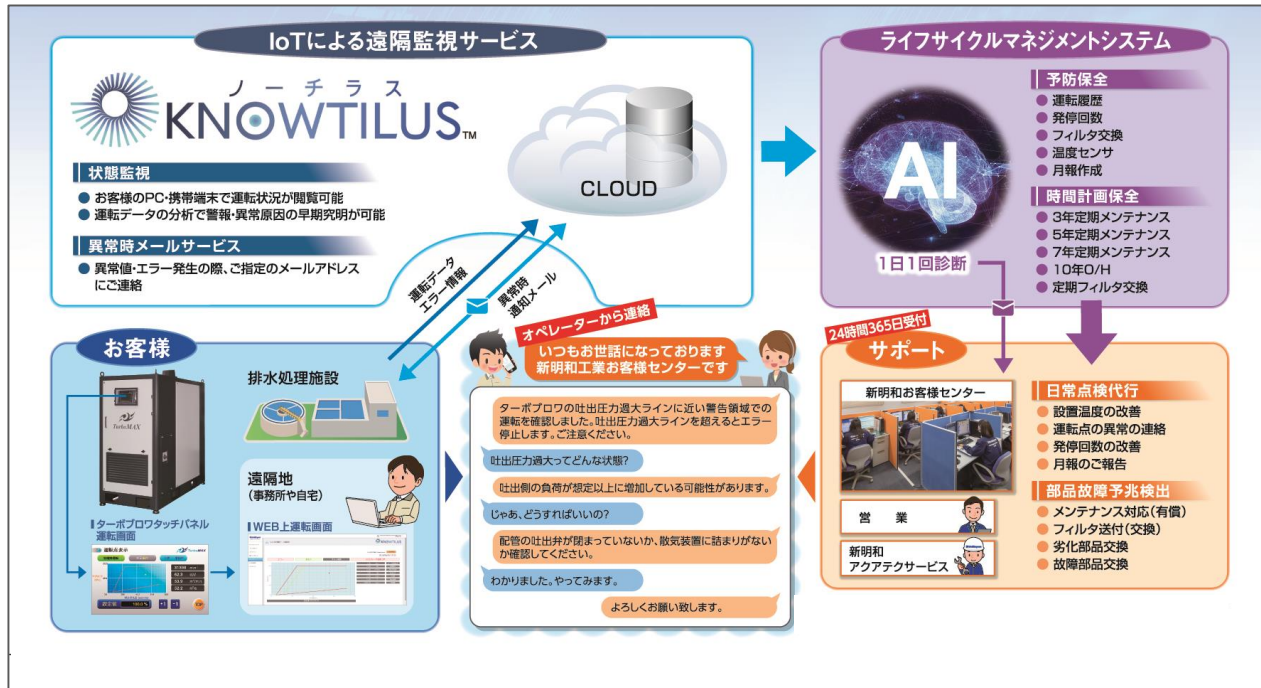
K市殿 雨水排水ポンプ（横軸軸流）



N市殿 雨水排水ポンプ（耐水型）



AI・IoTを活用したターボブロワ遠隔監視システム KNOWTILUS™ (ノーチラス)



AIでマンホールポンプの故障予測、遠隔監視、 健全な施設運用を実現 マンポネット® (クラウド)



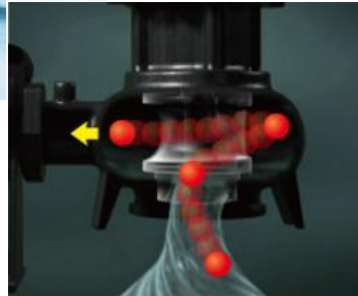
スマホやPCで遠隔監視でき、警報やエラー発生時は、関係者にエラー内容と対処方法を自動的にメール通知し、早期発見によりダウンタイムを短縮。AIを活用した運転データの分析で設備管理業務の支援や予防保全による安定稼働を実現。

これまで蓄積してきた技術やノウハウを数値化・デジタル化し、さらにAI導入による故障予測や傾向分析などにより、機器の長寿命化によるライフサイクルコスト低減に寄与。点検方法や推定原因の確認など、経験知の少ない技術者支援や人材育成の一助としても活用できる。

◆北米市場



【高効率・高通過性
水中ポンプ（防爆タイプ）】
高効率・高通過性の両立を実現し、
消費電力や保守点検作業費を削減。



◆グローバル市場



【ターボブロワ（ばっ気装置）】
空気軸受と高効率インペラ、
高効率モータの技術融合により、
消費電力やCO₂排出量を削減。

販売ルートの相互活用



新明和工業：

北米・東南アジアを中心に水中ポンプなど
流体機器を海外展開。

TurboMAX：

自国(韓国)のほか、中国・欧州・インド
でもターボブロワの販売数が増加。

両社が保有する販売ルートを活用した
相互販売が可能に。

世界が認める流体機器メーカーを目指す

新たな価値創造に向けた取り組み

取り組み事例①：流体・航空機セグメント・外部企業による協業

再生炭素繊維を用いた試作品を「下水道展'22 東京」に出展

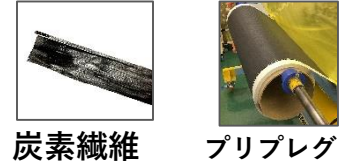
- ・重要課題（マテリアリティ）
地球温暖化防止、循環型社会への貢献。
- ・CFRP(炭素繊維強化プラスチック)は廃棄時の環境負荷が大きい。
製造時にも、炭素繊維は多くのCO₂を排出。
- ・富士加飾(株)と共同で、航空機製造工程で出る廃材から再生した炭素繊維で、当社流体製品のプロペラを試作。
- ・富士加飾(株)の再生技術は、成型済みCFRPやその中間材料（プリプレグ）から、ほぼ劣化のない状態で炭素繊維を回収し、新品と同じ用途で再利用を可能とするもの。
今般、再生炭素繊維の用途開拓の一つとして、当社製品への適用を試行した。



- ①異なる事業セグメント間のシナジーを高める。 [航空機セグメント－流体セグメント]
- ②社外パートナーとの共創領域を拡大する。
- ③“ものづくり”企業の責任として、循環型社会に向けた努力を継続。
工程廃材の再利用から着手し、将来的には、使用を終えた製品の素材再生までを含めた再生炭素繊維の適応範囲の拡大を目指す。



再生炭素繊維



炭素繊維

プリプレグ

原材料



素材カット

製品



CFRP部品

利用



航空機



工程廃材

リサイクル



プロペラ(試作品)

利用

(試行)



下水処理場

水問題の解決に挑むスタートアップ企業、WOTA株式会社への投資を決定・実施

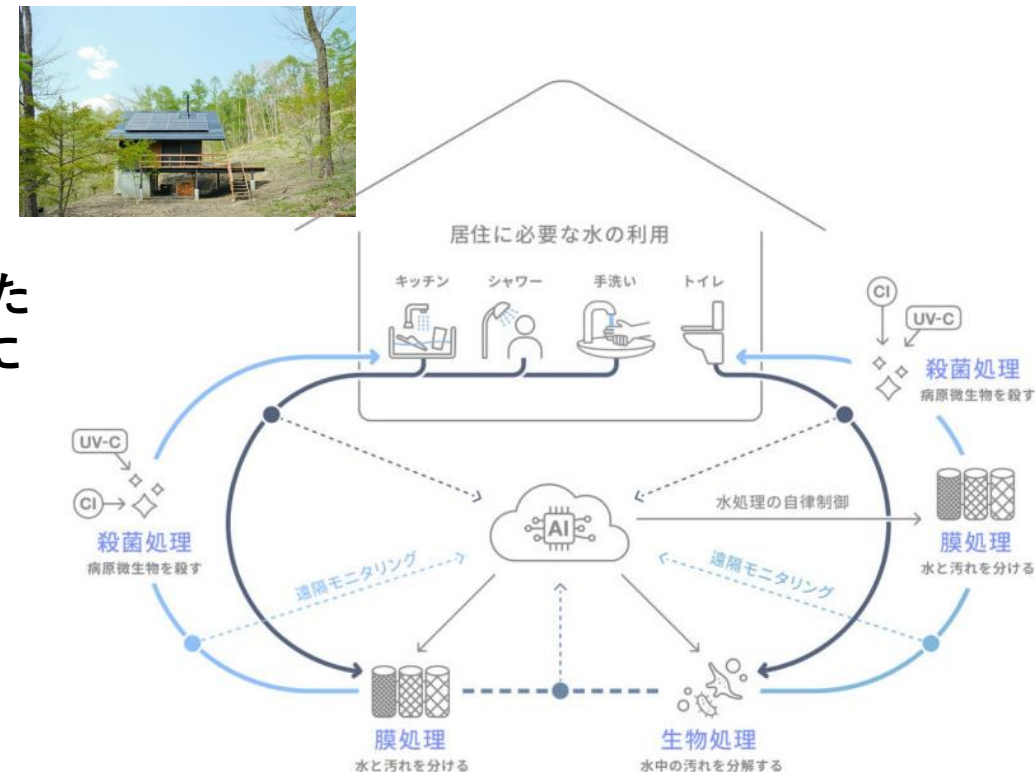
- ・ WOTA(株)は「水問題を構造からとらえ、解決に挑む」を存在意義として掲げる、日本のスタートアップ企業。地球上の水資源の偏在・枯渇・汚染によって生じる諸問題解決を志向する「水処理自律制御技術」および「小規模分散型水循環システム」を開発。

【出資の意図】

- ・ 当社は、社会変化に伴い、人口密度が低い地域に適した上下水インフラが必要になると思慮。
- ・ オフグリッド（水インフラの自律運用）、環境配慮を具体化した新たな上下水インフラの普及に取り組むWOTA(株)のビジョンに共感し、共創が期待できると判断。

【今後の取り組み】

- ・ 国内：大規模集中処理方式での上下水インフラ維持が困難な地域に対し、人口密度に応じた小規模分散型処理方式の社会実装に向け、WOTA(株)と協調して取り組む。
- ・ グローバル：上記について、水資源の乏しい諸外国での実装も検討する。



小規模分散型水循環システム

株式会社ニーリーと当社運営駐車場にてEV充電器設置に関する実証実験を開始

- ・モビリティSaaS「Park Direct」を運営する(株)ニーリー（2021年3月より業務提携）と当社が運営する千葉市の時間貸し駐車場「パークネット」にて、2022年9月からEV充電器設置に関する実証実験を開始。

【実証実験開始の背景】

- ・日本政府が2035年までに新車販売における電動車両比率100%とする方針を打ち出すなど、国をあげてEVの普及が急務となっている。
- ・上記推進策として、日本政府は高速道路のSAや公共施設にEV急速充電器を大量に設置する方針。

【今後の取り組み】

- ・本実証実験を通じて(株)ニーリーとの共創を進め、検証結果をもとにEV充電ステーションのビジネス展開を具体化する。



駐車場へのEV充電器設置

に関する実証実験を開始



取り組み事例④：スマート化で機械式駐車設備市場をリード

機械式駐車設備をより『便利に！』『快適に！』『安全に！』 スマホアプリ『Spasa』（新明和パーキングサポートアプリ）を開発

・車の入庫可否判定や駐車設備のあらゆる操作、EV充電機能に加え、安全にご利用いただくための注意喚起など、さまざまな課題を解決するスマホアプリ『Spasa（スパサ）』を開発し、2022年10月20日から販売開始。

■機械式駐車設備にまつわる課題を『Spasa』が一気に解決！

- ・ナンバープレート情報を入力すると、駐車設備側が登録情報提供機関システムの車検情報と当社独自のデータベースを基に入庫可否を判断。
- ・ナンバープレート情報をあらかじめ登録し、所定の位置に停車するとカメラが撮影したナンバープレート情報をAIが読み取り、入庫可能なサイズのパレットを自動で呼び出す。
- ・機械式駐車設備は初回利用時に取り扱い説明を要するが、注意事項などがアプリ画面上に表示され注意を促すとともに、取扱説明書を適宜閲覧できるなど、利用者の安全確保をサポート。
- ・EV普及に向け輪番充電システムを開発。利用者側はアプリ上で充電予約や充電完了時間等が確認でき、オーナー側は少ない受電容量契約で複数車両の充電に対応できる仕組みを搭載。



ナンバープレート情報から入庫可否を判定

まずはあなたの車両のナンバープレートを入力してください。

① ②
品川 999

③ ④
あ 12-34

ナンバー情報①
|

ナンバー情報②

ナンバー情報③

ナンバー情報④

入力画面



判定結果 ③ 出庫の案内	
□ : 契約している駐車室空間	
駐車室空間	判定結果
普通車	入庫可能
この契約駐車室	車高が立体駐車場の許容値に近い ため、実車にて確認をお願い 致します。
ミドルーフ車	
ハイルーフ車	車高が駐車場の許容値を超えて いるため、収容できません。
サンプルサン プル車	最低地上高が不明なため、最低 地上高を計測、またはディーラ ー等で取得後に、実車にてご確 認ください。

判定画面

取り組み事例⑤：特装車の安全確保とメンテナンス面強化を具体化

コミュニケーションツール「新明和スマートコネクト」

- ・特装車の稼働状況を把握するコミュニケーションツール
ShinMaywa Smart Connect®「新明和スマートコネクト」の対象製品にローダーダンプ（建設機械運搬兼用ダンプトラック）を追加。



■「新明和スマートコネクト」とは？

- ・専用アプリケーションの操作により、購入された特装車の稼働状況を、スマートフォンを介して容易に確認できるコミュニケーションツール。
- ・対象製品の銘板に表示されている2次元コードをスマートフォンで読み取り、会員登録することで利用可能に。
- ・製品の取扱い説明や万が一故障等が発生した際は修理窓口案内等のサポート情報が閲覧できる。
- ・近距離無線対応製品では、稼働状況のリアルタイム確認、簡易診断機能など、不具合の早期発見が可能に。



（一部機能は2023年1月から運用開始予定）

コア技術を生かした固定翼型無人航空機の開発と実証

■XU-S [固定翼型無人航空機]

- ①衛星通信によるレベル3飛行に成功
- ②定期便就航空港での運用に成功
- ③社会実装に向けた検証
 - ・通信インフラ
 - ・災害調査
 - ・環境測定 など

固定翼型無人航空機開発技術



XU-S

自律航行技術



■XU-L [ヤマハ発動機(株)と共同開発]

- ・無人機の大型化、自律飛行システムの開発をめざす



■XU-M [無人飛行艇]

- ・社会実装の可能性を拡大



第1回ドローンサミット
(主催：内閣官房・兵庫県)にて、
離着水・飛行デモを実施

ESG経営の推進

－「統合報告書」の発行－

当社グループの価値創造プロセス – 「統合報告書」から転載–

価値創造プロセス

新明和工業は2020年に創業100周年を迎えました。次の100年に向けて「受け継ぐこと」「変革すること」を明確にしたうえで経営理念を見直し、2030年をゴールとした長期ビジョンを設定しました。我々はこれからもたゆまぬ技術革新により、これまでと同様に社会インフラの高度化へ貢献することでグローバルな社会ニーズに応え続けてまいります。



持続可能な
開発目標 (SDGs)

新明和グループは、事業活動を通じて、持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献を目指しています。



INPUT

外部環境の変化 (メガトレンドと環境変化)

人口構造の変化

- ・少子高齢化と労働力不足
- ・ダイバーシティと働き方改革
- ・高齢化による交通弱者増加
- ・外国人労働者の増加

都市化の進展

- ・人口、交通、物流の都市集中
- ・商業圏を含む物流量増大
- ・都市・地方の二極化進行

気候変動と資源不足

- ・地球温暖化に伴う自然災害増大
- ・CO₂排出量の増大
- ・脱化石燃料と再生可能エネルギーへの転換

テクノロジーの進化

- ・デジタル技術の加速とIoT拡大
- ・電動化、無人化、省人・省力化
- ・サイバーテロ等、セキュリティリスクの増大

社会・経済の変化

- ・モビリティの進化と移動手段の多様化
- ・DXによるビジネスモデルの革新
- ・経済的価値と社会的価値の追求
- ・SDGsへの貢献とESG経営の推進
- ・グローバル市場の拡大
- ・経済安泰に伴うサプライチェーンの再構築
- ・強制労働や児童労働など人権問題への対応

主要な投入資本

● 財務資本

- ・中期経営計画にそったキャッシュ・アロケーションの決定
- ・総資産：221,206百万円
- ・自己資本比率：41.8%
- ・ネットD/Eレシオ：0.28倍

● 人的資本

- ・「人材資源管理」から「人材価値向上」への転換
- ・連結従業員数：5,783名
- ・国内：5,184名、海外：599名

● 製造資本

- ・顧客個別仕様対応／多品種少量生産に対応する高度な製造ノウハウと生産技術
- ・製造拠点数：国内17カ所、海外7カ所
- ・熟練技能社内認定取得者数：93名
- ・設備投資：4,782百万円

● 知的資本

- ・さまざまな事業で培った技術やノウハウ、それらと外部の先端技術とを適切に融合し新たな価値を創造
- ・保有特許数（特許・実用新案・意匠）：1,236件
- ・研究開発費：2,282百万円

● 社会・関係資本

- ・創業以来100年以上にわたり、人々の暮らしや社会インフラを技術・製品・サービスで支えてきた実績と、これに基づく信頼、強固なサプライチェーン
- ・連結子会社：31社
- ・調達パートナー：約2,500社

● 自然資本

- ・地球温暖化防止と循環型社会への貢献
- ・原油換算エネルギー使用量：18,031kl
- ・廃棄物発生量：7,685トン（内再資源化量：7,558トン）
- ・水使用量：3,511.6m³

2022年3月時点

OUTPUT

長期経営計画 → P21

長期事業戦略



経営基盤強化

中期経営計画 → P21

Phase1「転換」

Phase2「拡大」

Phase3「飛躍」

事業戦略 → P29



社会的価値

マテリアリティ → P35

環境	地球温暖化防止 循環型社会への貢献
社会	ダイバーシティ&インクルージョンの推進 働きやすい職場環境の整備
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス体制の充実 リスク管理体制の整備・強化

OUTCOME

経済的価値 (2030年度目標水準)

売上高
4,000億円以上

海外売上高
1,000億円以上

ROE
12%以上

ROIC
10%以上

ステークホルダー へ提供する価値

お客様

従業員

お取引先様

株主

地域・社会

長期事業戦略：5つのテーマ
[SG-Vision2030]のバックキャストから高い目標に挑戦する。

経営基盤強化：3つのテーマ
長期事業戦略を支え、サステナブルな成長を実現する。

ESGにおける重要課題（マテリアリティ）		重要テーマ
環境	地球温暖化防止	生産活動の温室効果ガス排出削減（Scope1・2）
		環境負荷軽減「製品・サービス」の提供
	循環型社会への貢献	廃棄物の削減
社会	ダイバーシティ & インクルージョンの推進	● 多様性を尊重し、支援する組織風土の醸成体制の構築、意識醸成および環境の整備 ● 個人に内在する多様性の獲得
	働きやすい職場環境の整備	- 人材育成、人材開発および多様性のある人材の採用 ● 個人が持つ多様性やWillを生かす場の創出 - 事業競争力の向上(経営基盤の強化)および長期事業戦略との融合
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス体制の充実	取締役会の監督機能強化
		職務執行における適法性の確保
	リスク管理体制の整備・強化	全社リスク管理体制の整備・強化
		電子情報管理体制の強化
		品質および安全性の確保
		CSR調達の推進

※現在、これらのKGIおよび年次単位のKPIを策定中

ご清聴ありがとうございました。

2022年11月17日

新明和工業株式会社

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

補足資料

商号	新明和工業株式会社
本社	兵庫県宝塚市新明和町1-1
設立	1949年11月5日
資本金	15,981,967,991円
代表者	取締役社長 五十川 龍之（いそがわ たつゆき）
従業員数	連結 5,934名 単体3,017名（2022年9月末現在）
連結子会社	30社

セグメント別 売上高 構成比 (22.3期)

航空機



その他

特装車



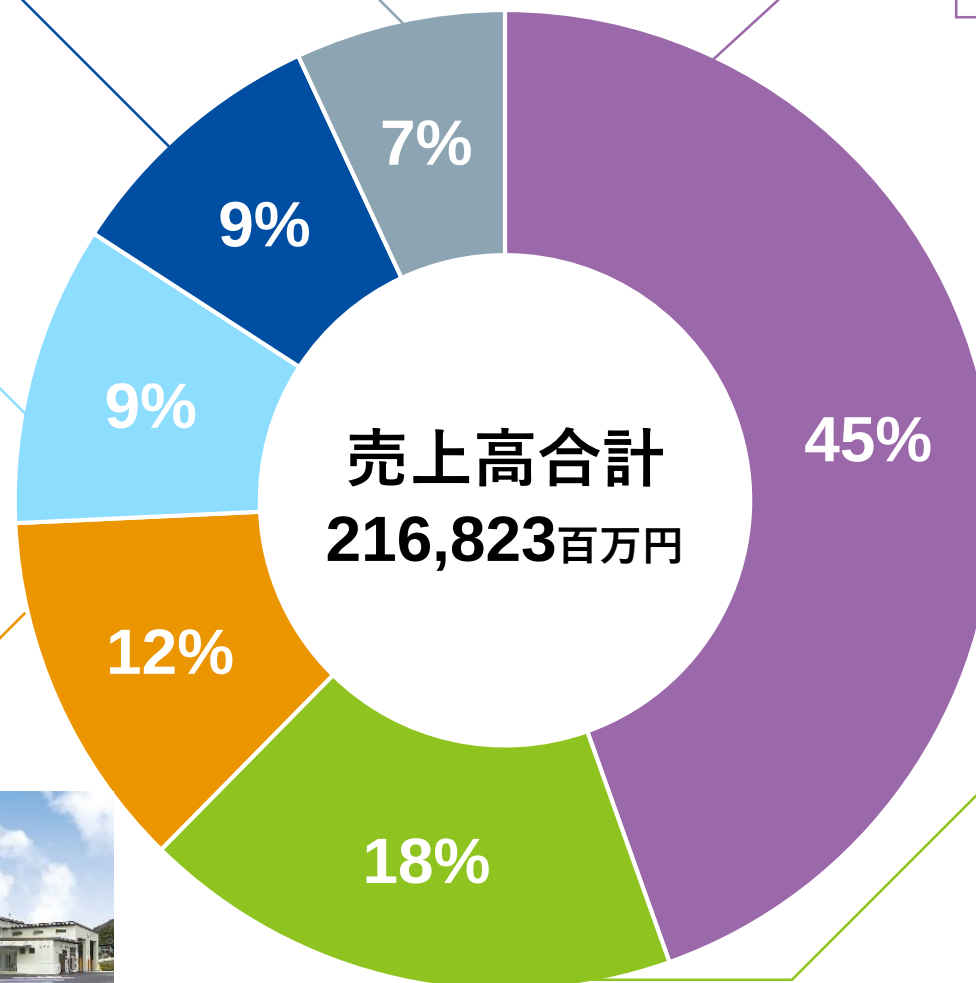
流体



産機・環境システム



パーキングシステム



(単位：億円)

	13.3期	14.3期	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期
受注高	1,652	2,148	2,039	2,100	2,097	2,305	2,379	2,218	1,993	2,631
売上高	1,509	1,740	1,931	2,039	2,012	2,073	2,172	2,272	2,092	2,168
営業利益	58	108	136	152	130	105	107	128	104	105
営業利益率 (%)	3.9	6.2	7.1	7.5	6.5	5.1	4.9	5.6	5.0	4.9
経常利益	64	114	143	155	132	107	104	123	111	118
親会社株主に帰属する 当期純利益	113	74	91	102	89	70	69	73	54	69
受注残高	661	1,072	1,187	1,245	1,327	1,561	1,773	1,719	1,616	2,103
海外売上高	304	360	456	481	430	425	428	432	271	310
有利子負債	80	60	41	20	1	0	498	575	545	522
自己資本	889	951	1,058	1,129	1,182	1,248	823	829	879	924
ROE (%)	13.6	8.1	9.1	9.4	7.7	5.8	6.8	8.9	6.4	7.7
ROIC※ (%)	3.9	6.8	8.3	9.1	7.7	6.0	5.8	6.5	5.1	5.1

※ROIC = 営業利益 × (1 - 実効税率) / 投下資本 (= 有利子負債 + 自己資本) の期首期末平均値

業績の推移 セグメント別①

(単位：百万円)

セグメント	項目	13.3期	14.3期	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期
特装車	受注高	72,299	93,965	91,006	79,649	89,722	91,303	107,463	101,012	94,246	118,662
	売上高	65,826	77,328	84,775	87,462	89,304	90,317	92,333	94,627	94,777	97,190
	営業利益	3,774	5,009	6,929	6,748	8,348	6,313	6,544	6,802	6,707	5,354
	営業利益率 (%)	5.7	6.5	8.2	7.7	9.3	7.0	7.1	7.2	7.1	5.5
パーキングシステム	受注高	27,592	32,292	29,805	30,674	31,561	55,017	35,797	36,275	37,332	38,133
	売上高	27,194	28,301	27,440	29,359	31,145	31,979	33,863	37,805	35,228	38,099
	営業利益	1,474	899	1,330	1,814	1,850	1,780	2,343	3,223	3,228	3,066
	営業利益率 (%)	5.4	3.2	4.8	6.2	5.9	5.6	6.9	8.5	9.2	8.0
産機・環境システム	受注高	25,031	26,712	28,583	31,899	29,209	30,424	38,533	42,685	36,980	37,052
	売上高	23,287	24,371	27,928	30,155	29,451	30,099	33,810	38,370	37,195	25,560
	営業利益	1,272	2,037	1,878	1,985	2,219	2,468	2,474	2,748	2,989	1,724
	営業利益率 (%)	5.5	8.4	6.7	6.6	7.5	8.2	7.3	7.2	8.0	6.7

※ 23.3期1Qより報告セグメント区分を見直し、「産機・環境システム」に含まれていた「流体」を報告セグメントとして記載しております。
これに伴い、22.3期の数値は組換後の数値で記載しております。

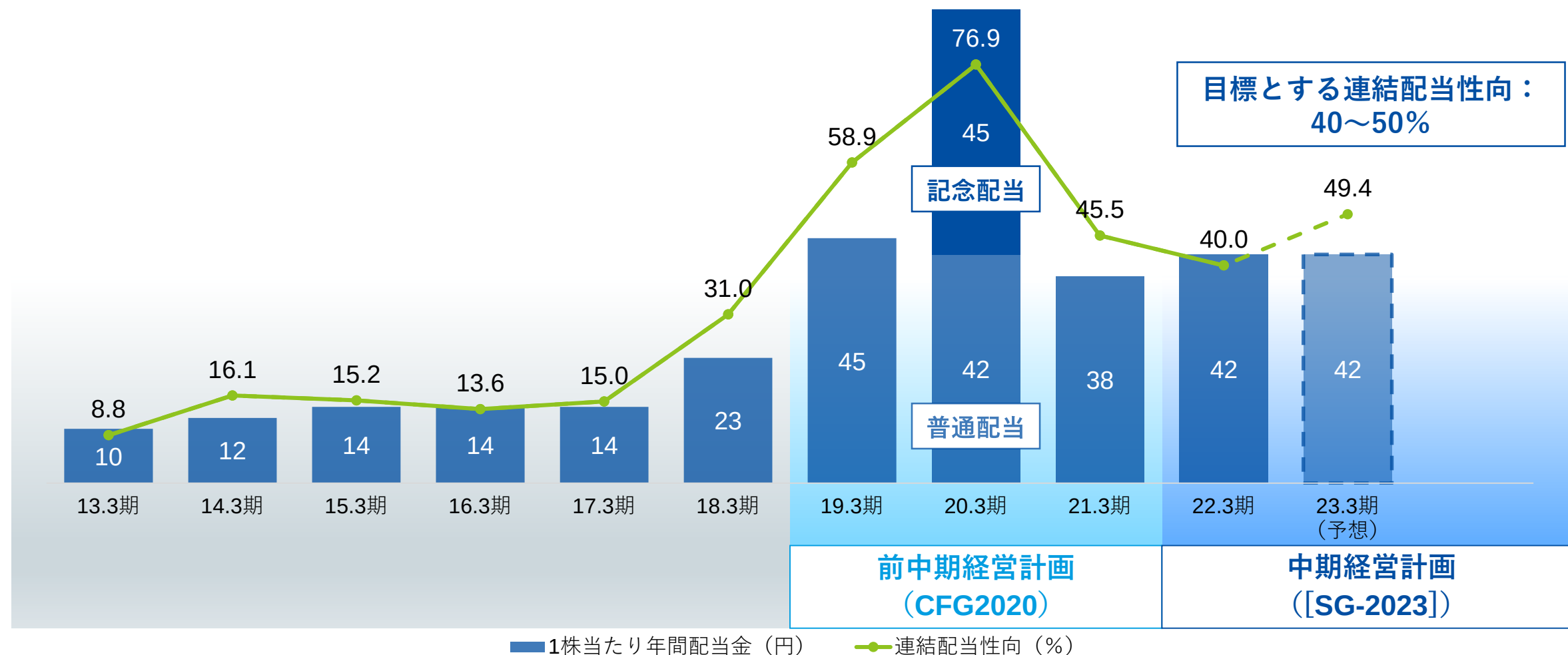
業績の推移 セグメント別②

(単位：百万円)

セグメント	項目	13.3期	14.3期	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期
流体	受注高	22,130									
	売上高	20,787									
	営業利益	3,151									
	営業利益率 (%)										15.2
航空機	受注高	29,740	52,556	44,068	55,502	43,741	40,803	35,772	30,393	13,378	31,711
	売上高	26,123	34,067	41,143	47,262	39,028	40,699	43,635	38,950	25,957	19,137
	営業利益	1,360	4,665	5,263	6,546	2,000	1,368	649	1,551	△808	△875
	営業利益率 (%)	5.2	13.7	12.8	13.9	5.1	3.4	1.5	4.0	△3.1	△4.6
その他	受注高	10,589	9,338	10,505	12,340	15,498	13,005	20,336	11,511	17,371	15,472
	売上高	8,486	9,941	11,843	9,677	12,274	14,239	13,654	17,476	16,066	16,047
	営業利益	285	318	439	796	960	1,049	1,037	1,193	1,445	955
	営業利益率 (%)	3.4	3.2	3.7	8.2	7.8	7.4	7.6	6.8	9.0	6.0

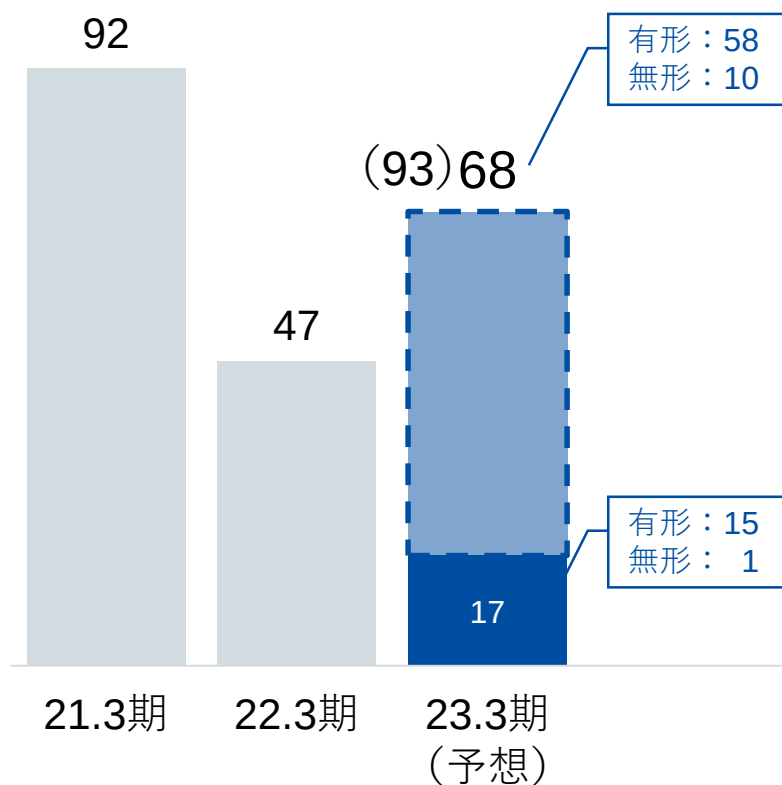
※ 23.3期1Qより報告セグメント区分を見直し、「産機・環境システム」に含まれていた「流体」を報告セグメントとして記載しております。
これに伴い、22.3期の数値は組換後の数値で記載しております。

1株当たり配当金と連結配当性向の推移



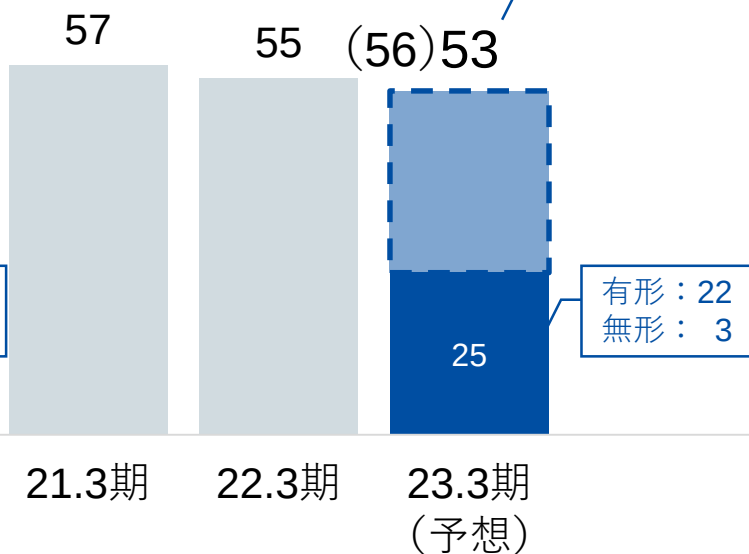
設備投資額 (単位：億円)

※ 下段：2Q実績
()：前回公表値



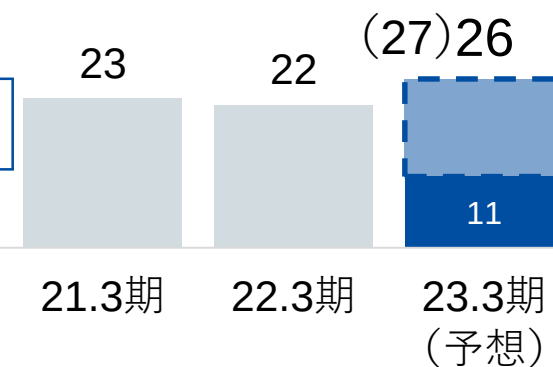
減価償却費 (単位：億円)

※ 下段：2Q実績
()：前回公表値



研究開発費 (単位：億円)

※ 下段：2Q実績
()：前回公表値



海外売上高 セグメント別

(単位：億円)

	特装車			パーキングシステム			産機・環境システム			流体			航空機			その他			合計		
	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減	22.3期 2Q	23.3期 2Q	増減
日本	467	408	△58	168	167	△0	46	50	+4	54	59	+5	61	61	+0	75	63	△12	872	812	△60
アジア	4	10	+5	9	15	+5	41	59	+17	3	19	+15	—	—	—	—	—	—	60	104	+44
北米	0	0	△0	—	—	—	5	10	+4	3	4	+1	38	48	+9	—	—	—	47	63	+15
その他	11	17	+6	—	—	—	7	33	+25	0	2	+2	2	5	+3	—	—	—	22	59	+37
売上高 合計	483	437	△46	178	183	+5	101	154	+52	62	87	+24	101	115	+13	75	63	△12	1,002	1,040	+37
海外売上高 比率 (%)	3.4	6.5	+3.1 pt	5.5	8.3	+2.8 pt	54.2	67.1	+12.9 pt	12.7	31.3	+18.6 pt	40.1	46.3	+6.2 pt	0	0	—	13.0	21.9	+8.9 pt

2022年7-10月 ニュースリリース一覧（事業・製品）

- 2022年7月 [コミュニケーションツール「新明和スマートコネクト」 対象製品を拡大](#)
- 2022年7月 [リサイクルCFRP（炭素繊維強化プラスチック）を用いた流体製品を試作（流体サイト）（航空機サイト）](#)
- 2022年7月 [日刊工業新聞に「新明和、CFRP再生 産機に再利用 富士加飾と新技術」の記事が掲載されました（流体サイト）（航空機サイト）](#)
- 2022年8月 [WOTA株式会社への投資を決定・実施](#)
- 2022年8月 [積荷搬送装置付運搬車「スライドデッキ」の新モデルを発売](#)
- 2022年9月 [テールゲートリフタ用オプション「ほたるランプ」を発売](#)
- 2022年9月 [「すいちょくゲート®・サイドタイプ」の新型モデルを発売](#)
- 2022年9月 [無人飛行艇「XU-M」が初飛行に成功](#)
- 2022年9月 [機械式駐車設備 操作支援ツール「新明和パーキングサポートアプリ『Spasa』」を開発](#)
- 2022年9月 [日刊工業新聞に昇降式駐車設備 AI活用に関する記事が掲載されました](#)
- 2022年9月 [ヤマハ発動機と新明和工業が小型航空機の初期飛行試験を実施](#)
- 2022年10月 [「宝塚市新ごみ処理施設等整備・運営事業」を受注](#)
- 2022年10月 [日刊工業新聞にごみ処理施設等整備・運営事業に関する記事が掲載されました](#)

IRメール配信サービスご登録のお願い

IR情報



IRトピックス

- 2022年8月10日 「四半期報告書（第1四半期）」を掲載しました [PDF/75.2 KB]
- 2022年7月29日 「2023年3月期第1四半期決算短信」を掲載しました [PDF/251.0 KB]
- 2022年7月22日 譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分の払込完了に関するお知らせ [PDF/118.8 KB]

IRカレンダー

現在、日程が確定しているイベント等はございません。

[スケジュール一覧](#)

株価情報



IR情報

- 経営方針
- IRニュース
- 財務・業績
- IRライブラリー
- IRカレンダー
- 株式関連情報
- IR問い合わせ先
- IRリンク集
- ディスクロージャー・ポリシー
- 免責事項
- 個人投資家の皆様へ



当社の企業ニュースや財務活動を
Eメールでタイムリーにお知らせ
しています。

以下URLからアクセスできます
ので、ぜひご登録ください！

<https://rims.tr.mufg.jp/?sn=7224>

本資料は、新明和工業株式会社（以下「当社」といいます。）またはそのグループ会社（以下「当社グループ」といいます。）に関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする過去の事実以外の情報（以下「将来情報」といいます。）を含む場合があります。また当社の経営陣は将来情報に関する発言を行うことがあります。これらの将来情報の記載は、当社が入手した情報に基づく、本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点における当社の予測を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去の事実以外に、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。

したがって、将来情報は、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。当社の実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性がある重要なリスク要因は多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書等の当社の各種開示書類にも詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来情報に変更があった場合でも、当社はそれらの情報を最新のものに随時更新するという義務を負いかねますのでご了承ください。

また、本資料に記載されている当社ないし当社グループ以外の企業等にかかわる情報や意見は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされるいかなる損害等についても、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資に関する判断は、投資家各位の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。

新明和工業株式会社